

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年2月14日

【四半期会計期間】 第17期第3四半期(自2019年10月1日至2019年12月31日)

【会社名】 アルフレッサホールディングス株式会社

【英訳名】 Alfresa Holdings Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 久保 泰三

【本店の所在の場所】 東京都千代田区大手町一丁目1番3号

【電話番号】 03-5219-5100

【事務連絡者氏名】 取締役 常務執行役員 総務・財務担当 岸田 誠一

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区大手町一丁目1番3号

【電話番号】 03-5219-5100

【事務連絡者氏名】 取締役 常務執行役員 総務・財務担当 岸田 誠一

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第16期 第3四半期 連結累計期間	第17期 第3四半期 連結累計期間	第16期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (百万円)	2,002,693	2,062,854	2,640,511
経常利益 (百万円)	44,484	41,544	55,138
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	34,506	27,995	41,724
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	24,359	38,903	29,837
純資産額 (百万円)	436,603	470,320	442,081
総資産額 (百万円)	1,385,419	1,422,171	1,341,964
1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	161.70	132.26	195.91
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	31.4	33.0	32.9

回次	第16期 第3四半期 連結会計期間	第17期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	83.73	46.61

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第17期第1四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、第16期連結会計年度に関する主要な経営指標等について、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績

当社グループでは、今年度新たに「19-21中期経営計画 さらなる成長への挑戦 ～健康とともに、地域とともに～」(以下「19-21中計」という。)を策定し、グループ経営方針に掲げた「グループ連携体制の構築」「事業モデルの変革」「地域の人々の健康への貢献」「さらなる生産性の向上」「人づくり」に取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高2兆628億54百万円(前年同期比3.0%増)、営業利益345億44百万円(同5.5%減)、経常利益415億44百万円(同6.6%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益279億95百万円(同18.9%減)となりました。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

#### 医療用医薬品等卸売事業

医療用医薬品市場におきましては、抗悪性腫瘍薬の需要拡大等の影響により、市場は3.7%の成長となりました(クレコリサーチ&コンサルティング株式会社推定)。

当社グループでは、厚生労働省より公表され2018年4月からスタートしました「医療用医薬品の流通改善に向けて流通関係者が遵守すべきガイドライン」の遵守を重点課題として、「経済合理性に立った取引の推進」「単品単価契約の推進」「早期妥結の推進」に引き続き取り組んでおります。

あわせて、当社グループは医療用医薬品NO.1卸として勝ち続けるために「19-21中計」の重点施策として掲げた「MS機能のさらなる進化」「スペシャリティ商品への注力」「グループ物流の高度化、効率化と標準化」に取り組んでおります。

「スペシャリティ商品への注力」としては、連結子会社のアルフレッサ株式会社(本社：東京都千代田区、以下「アルフレッサ」という。)が2019年10月にスペシャリティ製品事業の推進体制を構築するため「スペシャリティ事業推進部」を新設し、グループ会社であるエス・エム・ディ株式会社(本社：東京都千代田区)と一体となって一元流通の積極的な展開を図っております。

「グループ物流の高度化」への取り組みとしては、アルフレッサが2019年7月に静岡物流センター(仮称)(所在地：静岡県藤枝市)の建築に着工いたしました。同センターは、2021年5月稼働予定で静岡県における物流の中核拠点として、厳格な温度管理等が可能な高機能物流センターとなる予定です。

また、アルフレッサは2019年9月にヤマト運輸株式会社(本社：東京都中央区)と「調剤薬局向け在宅医療支援サービス」を共同開発いたしました。

さらに、アルフレッサは2019年9月に乳房用超音波画像診断装置の開発を目指すベンチャー企業である株式会社Lily MedTech(本社：東京都文京区)へ出資いたしました。同社が手掛ける本装置は現在の乳がん検診の課題を解決する医療機器として期待されています。

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1兆8,184億72百万円(前年同期比3.1%増)、営業利益306億65百万円(同7.3%減)となりました。なお、売上高には、セグメント間の内部売上高118億26百万円(同2.5%減)を含んでおります。

出典：「2019最新オール・データ&ランキング」卸グループ別医療用医薬品事業シェア(株式会社ドラッグマガジン)

#### セルフメディケーション卸売事業

セルフメディケーション卸売事業におきましては、「トータルヘルスケア・マーチャндаイジング・ホールセラ」を推進し、新たな付加価値による差別化と創造性を持つオンリーワン卸を目指し、「19-21中計」の重点施策として掲げた「安定的かつ持続的な事業基盤の確立」「消費者視点に立った商品提案」「専売メーカー・専売商品の取り組み強化」「将来に向けた投資」「各事業セグメントとの連携強化」に取り組んでおります。

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、インバウンド需要の減少ならびに人手不足による人件費・物流費の高騰および改正消費税法施行に伴うシステム改修などによるコスト増により、売上高2,048億57百万円(前年同期比0.7%増)、営業利益18億76百万円(同10.3%減)となりました。なお、売上高には、セグメント間の内部売上高5億64百万円(同56.2%減)を含んでおります。

#### 医薬品等製造事業

医薬品等製造事業におきましては、グループシナジーの強化とさらなる規模拡大を推進するため、「19-21中計」の重点施策として掲げた「安心・安全・誠実なモノづくりの推進」「グループニーズに沿った製品の拡充」「製造受託・医薬品原薬事業の拡大」「海外事業の拡充」に取り組んでおります。

「グループニーズに沿った製品の拡充」の取り組みとしては、連結子会社のアルフレッサファーマ株式会社(本社：大阪市中央区)が2019年6月5日付で、潰瘍性大腸炎の病態把握の補助に使用されるカルプロテクチンキット「ネスコート<sup>®</sup> Cp オート」の体外診断用医薬品としての製造販売承認を取得いたしました。

また、アルフレッサファーマ株式会社は2019年6月27日付で放射線治療用吸収性組織スパーサ「ネスキープ<sup>®</sup>」を新発売いたしました。悪性腫瘍の治療のために行われる放射線治療の中でも粒子線を用いた治療が近年注目されていますが、本製品を使用することでより多くの治療機会を提供できるものと考えております。

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、第一三共株式会社(本社：東京都中央区)および同社の子会社である第一三共エスファ株式会社(本社：東京都中央区)から承継した長期収載品の売上増大等により、売上高336億67百万円(前年同期比13.8%増)、営業利益14億86百万円(同47.8%増)となりました。なお、売上高には、セグメント間の内部売上高85億71百万円(同30.9%増)を含んでおります。

#### 医療関連事業

医療関連事業におきましては、収益改善を目指した効率化と環境変化に対応した機能強化を推進するため、「19-21中計」の重点施策として掲げた「機能に応じた店舗の再編」「収益改善を目指した効率化・高度化」「多機能化による地域社会への貢献」「各事業セグメントとの連携強化」に取り組んでおります。

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、調剤報酬加算の獲得増加等の影響により、売上高268億20百万円(前年同期比3.4%増)、営業利益2億64百万円(同87.5%増)となりました。

## (2) 財政状態

### 資産の部

資産は、前連結会計年度末と比較して802億6百万円増加し、1兆4,221億71百万円となりました。

流動資産は、598億65百万円増加し、1兆966億50百万円となりました。これは主として、増収に伴い「受取手形及び売掛金」が520億34百万円増加ならびに「商品及び製品」が287億16百万円増加した一方で、「現金及び預金」が264億95百万円減少したことによるものです。

固定資産は、203億40百万円増加し、3,255億20百万円となりました。これは主として、物流センター等への設備投資に伴い有形固定資産が75億16百万円増加ならびに株価の上昇に伴い「投資有価証券」が155億80百万円増加した一方で、「のれん」等の無形固定資産が17億17百万円減少したことによるものです。

### 負債の部

負債は、前連結会計年度末と比較して519億67百万円増加し、9,518億50百万円となりました。

流動負債は、527億83百万円増加し、9,126億94百万円となりました。これは主として、「支払手形及び買掛金」が613億33百万円増加した一方で、「未払法人税等」が37億66百万円減少ならびに「賞与引当金」が42億46百万円減少したことによるものです。

固定負債は、8億16百万円減少し、391億55百万円となりました。これは主として、「長期借入金」が2億52百万円減少ならびに「退職給付に係る負債」が5億91百万円減少したことによるものです。

### 純資産の部

純資産は、前連結会計年度末と比較して282億38百万円増加し、4,703億20百万円となりました。

これは主として、「利益剰余金」が173億39百万円増加ならびに株価の上昇に伴い「その他有価証券評価差額金」が111億74百万円増加したことによるものです。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は10億46百万円(前年同期比16.8%増)であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	540,000,000
計	540,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	235,017,600	235,017,600	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	235,017,600	235,017,600	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日	-	235,017,600	-	18,454	-	58,542

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 23,343,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 211,449,800	2,114,498	-
単元未満株式	普通株式 224,300	-	-
発行済株式総数	235,017,600	-	-
総株主の議決権	-	2,114,498	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」および「単元未満株式」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ、2,800株および80株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数28個が含まれております。

## 【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) アルフレッサホールディングス 株式会社	東京都千代田区 大手町1丁目1-3	23,343,500	-	23,343,500	9.94
計	-	23,343,500	-	23,343,500	9.94

## 2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

## 役職の異動

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
取締役 常務執行役員 (総務・財務担当)	取締役 常務執行役員 (総務・財務担当 兼 財務企画部長)	岸田 誠一	2019年10月1日

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)および第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	206,300	179,804
受取手形及び売掛金	2 614,084	2 666,118
有価証券	10	10
商品及び製品	128,016	156,733
仕掛品	1,723	1,784
原材料及び貯蔵品	3,971	4,550
その他	83,120	88,138
貸倒引当金	442	490
流動資産合計	1,036,784	1,096,650
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	53,361	52,923
土地	65,765	67,962
その他（純額）	22,401	28,158
有形固定資産合計	141,528	149,045
無形固定資産		
のれん	4,970	4,341
その他	14,757	13,668
無形固定資産合計	19,727	18,010
投資その他の資産		
投資有価証券	123,643	139,223
その他	24,526	23,704
貸倒引当金	4,246	4,462
投資その他の資産合計	143,923	158,465
固定資産合計	305,180	325,520
資産合計	1,341,964	1,422,171

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2 817,446	2 878,780
短期借入金	760	597
未払法人税等	12,645	8,878
賞与引当金	8,387	4,140
その他	20,670	20,297
流動負債合計	859,911	912,694
固定負債		
長期借入金	951	698
退職給付に係る負債	12,889	12,297
その他	26,130	26,159
固定負債合計	39,971	39,155
負債合計	899,883	951,850
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	18,454	18,454
資本剰余金	101,958	101,958
利益剰余金	288,154	305,493
自己株式	29,365	29,367
株主資本合計	379,201	396,538
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	63,167	74,342
繰延ヘッジ損益	0	0
土地再評価差額金	3,676	3,676
為替換算調整勘定	89	48
退職給付に係る調整累計額	2,142	1,857
その他の包括利益累計額合計	61,722	72,571
非支配株主持分	1,157	1,209
純資産合計	442,081	470,320
負債純資産合計	1,341,964	1,422,171

## (2) 【四半期連結損益及び包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	2,002,693	2,062,854
売上原価	1,850,227	1,908,878
売上総利益	152,466	153,976
返品調整引当金戻入額	696	678
返品調整引当金繰入額	719	648
差引売上総利益	152,443	154,006
販売費及び一般管理費	115,877	119,461
営業利益	36,565	34,544
営業外収益		
受取利息	65	64
受取配当金	1,946	1,850
受取情報料	4,585	4,724
持分法による投資利益	133	-
その他	1,697	1,922
営業外収益合計	8,428	8,561
営業外費用		
支払利息	70	73
持分法による投資損失	-	1,037
不動産賃貸費用	161	169
その他	278	281
営業外費用合計	510	1,561
経常利益	44,484	41,544
特別利益		
固定資産売却益	916	86
投資有価証券売却益	5,753	485
特別利益合計	6,669	572
特別損失		
固定資産売却損	16	198
固定資産除却損	113	120
減損損失	381	69
投資有価証券評価損	1	32
合併関連費用	144	-
その他	18	46
特別損失合計	675	467
税金等調整前四半期純利益	50,477	41,650
法人税、住民税及び事業税	15,022	17,927
法人税等調整額	912	4,331
法人税等合計	15,935	13,596
四半期純利益	34,542	28,053
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	34,506	27,995
非支配株主に帰属する四半期純利益	36	57

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
<b>その他の包括利益</b>		
その他有価証券評価差額金	10,276	11,172
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	31	40
退職給付に係る調整額	126	296
持分法適用会社に対する持分相当額	2	15
その他の包括利益合計	10,183	10,850
四半期包括利益	24,359	38,903
<b>(内訳)</b>		
親会社株主に係る四半期包括利益	24,323	38,845
非支配株主に係る四半期包括利益	35	58

## 【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

## 1. 保証債務

連結子会社以外の会社の仕入債務等に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
エス・エム・ディ(株)	5,368百万円	エス・エム・ディ(株)	6,932百万円
(有)コーフク商事	276	(有)コーフク商事	101
その他	2	その他	2
計	5,648	計	7,036

## 2. 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

当第3四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
受取手形	1,138百万円	929百万円
支払手形	2,223	1,540

## 3. 偶発債務

当社の連結子会社であるアルフレッサ株式会社は、2019年11月27日、独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)の医療用医薬品の入札に関し、独占禁止法違反の疑いがあるとして、公正取引委員会の立入検査を受けました。

当社の連結業績に影響を及ぼす可能性があります。調査は継続中であることから、現時点ではその影響額を合理的に見積ることは困難であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)およびのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
減価償却費	7,024百万円	8,087百万円
のれんの償却額	891	668

(株主資本等関係)

1. 前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年5月11日 取締役会	普通株式	4,333	20.00	2018年3月31日	2018年6月5日	利益剰余金
2018年11月5日 取締役会	普通株式	5,080	24.00	2018年9月30日	2018年12月5日	利益剰余金

(注) 2018年11月5日取締役会決議の1株当たり配当額には、設立15周年記念配当が3円含まれております。

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

2. 当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月15日 取締役会	普通株式	5,080	24.00	2019年3月31日	2019年6月5日	利益剰余金
2019年11月6日 取締役会	普通株式	5,291	25.00	2019年9月30日	2019年12月4日	利益剰余金

(注) 2019年5月15日取締役会決議の1株当たり配当額には、設立15周年記念配当が3円含まれております。

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

企業結合による暫定的な会計処理の確定

2019年3月1日におけるアルフレッサファーマ株式会社(当社連結子会社)と第一三共株式会社および第一三共エスファ株式会社の企業結合について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、第1四半期連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、取得原価の当初配分額を以下のように見直しております。

1. 配分額の見直しの内容

のれん(暫定額)	5,845 百万円
製造販売権	7,482 百万円
繰延税金負債	2,287 百万円
のれん(確定額)	651 百万円

2. 製造販売権の償却方法および償却期間

15年の均等償却

3. 影響額

上記の見直しに伴い、前連結会計年度末におけるのれんおよび繰延税金資産はそれぞれ5,139百万円および2,275百万円減少し、製造販売権および利益剰余金はそれぞれ7,440百万円および25百万円増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注)2
	医療用 医薬品等 卸売事業	セルフメデ ィケーション 卸売事業	医薬品等 製造事業	医療関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,751,516	202,215	23,027	25,933	2,002,693	-	2,002,693
セグメント間の 内部売上高又は振替高	12,124	1,289	6,550	0	19,964	19,964	-
計	1,763,641	203,505	29,577	25,933	2,022,658	19,964	2,002,693
セグメント利益又は損失( )	33,078	2,092	1,005	141	36,318	247	36,565

(注) 1. セグメント利益の調整額247百万円には、セグメント間取引消去163百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用83百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注)2
	医療用 医薬品等 卸売事業	セルフメデ ィケーション 卸売事業	医薬品等 製造事業	医療関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,806,645	204,293	25,095	26,820	2,062,854	-	2,062,854
セグメント間の 内部売上高又は振替高	11,826	564	8,571	-	20,962	20,962	-
計	1,818,472	204,857	33,667	26,820	2,083,817	20,962	2,062,854
セグメント利益又は損失( )	30,665	1,876	1,486	264	34,293	250	34,544

(注) 1. セグメント利益の調整額250百万円には、セグメント間取引消去228百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用22百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益(円)	161.70	132.26
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	34,506	27,995
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	34,506	27,995
普通株式の期中平均株式数(千株)	213,402	211,674

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【その他】

2019年11月6日開催の取締役会において、2019年9月30日を基準日とする剰余金の配当(中間配当)に関し、次のとおり決議いたしました。

- |                        |            |
|------------------------|------------|
| (1) 配当金の総額             | 5,291百万円   |
| (2) 1株当たりの金額           | 25円00銭     |
| (3) 支払請求の効力発生日および支払開始日 | 2019年12月4日 |

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月14日

アルフレッサ ホールディングス株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 俵 洋 志 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 橋 本 裕 昭 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 渡 邊 崇 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアルフレッサホールディングス株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アルフレッサホールディングス株式会社及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途、財務諸表に添付される形で保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。